

## 「リスクテイクを恐れない」 野村アセットの田中啓章氏（運用の達人）

2025/10/27 12:00 日本経済新聞電子版 1251文字

資産形成に取り組む個人投資家にとって、経験と実績に裏打ちされた投資のプロの視点や信念は参考になる。今回は野村アセットマネジメントで「日本次世代経営者ファンド〈愛称：情熱列島〉」などの運用を手掛ける田中啓章シニア・ポートフォリオマネジャーに話を聞いた。同ファンドは主に中小型のグロース（成長）株を投資対象とする。

田中氏は入社当初、国内の債券や不動産投資信託（REIT）を担当。その後は米国でハイイールド債（低格付け債）の運用経験を積み、30代半ばで日本株の運用に転じた異色の経歴を持つ。株式運用に携わって10年、日本の未来を担う若い経営者の挑戦を応援し、中小型株投資を盛り上げたいという思いから独自の運用哲学を磨いてきた。



野村アセットマネジメントの田中啓章シニア・ポートフォリオマネジャー

——運用者としての信念を教えてください。

「成長の芽を見逃さず、中小型株のポテンシャルを発掘することです。日本には大きな可能性を秘めた中小型株が数多く存在します。ただ、それらをカバーするアナリストが少ないので、自ら情報を集めて分析するしかありません。工場見学に足を運び、経営者との対話で感じ取ったことを投資判断につなげていく。その過程で得た感覚や知見を自分の中しっかりと取り込み、ファンドを通じて日本社会の前向きな変化に少しでも貢献したいと思っています」

——ファンドマネジャーに必要な資質は何だと思いますか。

「正解が1つとは限らないこの世界では、多角的な意見に耳を傾ける姿勢が役立ちます。自分と真逆の意見を聞いたり、投資先企業を競合他社と比べてみたりすることが有益な気づきにつながる場合が少なくありません。自分の投資判断を俯瞰（ふかん）的な視点で見ながら、相場環境の変化にも柔軟に対応していくことが重要です」

「もう1つはリスクテイクを恐れないこと。アクティブ運用では取るべきリスクを意識的に取らないと、期待に見合ったパフォーマンスを上げられません。苦しい状況でも逃げずに、自分の勝ち方を追求していく強い気持ちが必要になります」

——中小型株の銘柄選定で重視するポイントは。

「経営者の資質です。中小型株は大型株以上に、社長や経営陣のかじ取りが会社の将来を左右します。だからこそ成長意欲が強く、落ち着いて物事を判断できる経営者を高く評価します。どんなに堅実でも、成長をめざす意欲を感じられない経営者の会社はグロース型の投資には向きません。一方、前のめりでバランスを欠いた経営者もリスクが大きい。短期の業績だけでなく、経営者の長期的なビジョンに共感できるかどうかを重視しています」

——今後の中小型株の見通しを教えてください。

「株価が堅調な大型株に比べ、ここ数年は中小型株の出遅れが目立っていました。しかし足元では円安が落ち着き、インフレ対応力も向上するなど環境は好転しています。さらに東京証券取引所の市場改革が中小型株の成長に向けた真剣な取り組みを促しつつあります。今後は中小型株にも『いい会社』が増え、新たな投資先としての魅力が広がっていくと思います」

（QUICK資産運用研究所 望月瑞希）

許諾番号NK000154 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

本サービスで提供される記事、写真、図表、見出しその他の情報（以下「情報」）の著作権その他の知的財産権は、その情報提供者に帰属します。

本サービスで提供される情報の無断転載を禁止します。

本サービスは、方法の如何、有償無償を問わず、契約者以外の第三者に利用させることはできません。

Copyrights © 日本経済新聞社 Nikkei Inc. All Rights Reserved.